

創設100周年を迎える 日本造園学会と その活動



公益社団法人
日本造園学会会長
千葉大学大学院
園芸学研究院
教授
柳井 重人

1 はじめに

本造園学会は、造園という伝統的な職能が蓄積してきた技術と文化のうえに、近代的な理論と科学的体系を構築することを目的として、1925年に創設されました。1923年の関東大震災からの復興が、学会創設の契機の一つになっています。その後、我が国最初の造園学に関する学術団体として発展してきた学会は2025年に創設100周年の記念すべき年を迎えます。

現在、学会は約2,200人の会員を擁し活動を進めています。学術団体であるため、会員は大学や研究機関の研究者がほとんどであると思われがちですが、実際には、国や地方公共団体の行政担当者、民間のコンサルタントや設計事務所に勤務する実務家に至るまで、きわめて幅広い多様な会員により構成されています。

これは、学術を基盤としながら、技術、芸術、政策・事業など、造園・ランドスケープ界の多様な分野をまたぐプラットフォームとしての役割を果たし、社会に貢献することを学会の目的としているからです。

また、従来から、造園・ランドスケープ関連諸団体と連携を深めるべく包括協定の締結を進めてきました。現在、(一社)日本造園建設業協会、(公財)都市緑化機構、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会、全国1級造園施工管理技士の会、(一社)公園管理運営士会と包括協定を締結しています。協定に基づき、相互の事業に関わる連携と協働を進めています。

2 学会誌の刊行

学会の基本的な情報発信の手段としては、学会誌の刊行が挙げられます。

学会誌「ランドスケープ研究」は、毎年1巻5号を刊行しています。このうち、本誌の1～4号は、冊子体であり、会員宛てに郵送されます。編集委員会で企画立案した特集テーマ・記事が主であり、あわせて学会の活動報告等も掲載さ

れます。最近の特集テーマを遡ると「公園で商いをするということ」、「地域に生きる知恵と風景」、「生物多様性—ネイチャーポジティブの時代へ」、「ランドスケープDX」、「日本庭園の継承と発展」、「世界への発信に向けて日本のランドスケープを考える」、「在来草本植物を用いた植栽事業の現状と可能性」、「公園と子育て・子育て—公園を舞台とした地域の課題解決」、「グリーンインフラ—緑地の雨水貯留浸透機能」等が挙げられます。研究者のみならず造園技術者にとっても有益な幅広いテーマ設定になっており、最新の動向を理解することが出来ます。なお、毎巻5号は研究発表論文集であり、査読審査を受けた研究論文がオンライン上で公開されます。

「ランドスケープ作品選集」は、学会誌の増刊号という位置づけです。1992年度から隔年（西暦偶数年度）で刊行されています。学会の正会員により企画、計画、設計され、応募登録時点で竣工している造園作品のうち、一定の選考基準を満たしたものが掲載されます。日本国内のみならず海外の作品も対象です。作品毎にカラー写真や平面図、作品の解説や作品評等が掲載され、好評を博しています。

「ランドスケープ技術報告集」は、カラー版の電子媒体で刊行しています。年3回投稿を受け付けており、学会個人会員もしくは賛助会員団体の社員・職員の方が著者に1名以上含まれれば投稿できます。投稿後は、形式審査を経て、学会ホームページに掲載されます。造園における調査、計画、設計、施工、施工管理、施工監理、運営管理、維持管理に関わる技術、造園建設に用いられる工法、資材に関わる技術を対象にしています。造園技術者の方々の実務・現場での知見を、他の場面や学術研究にフィードバックする上で重要な役割を果たすことが期待されています。

3 全国大会・支部大会の開催

学会の主要行事には、年に1回、春季に開催される全国大会があります。全国大会では、3日間の期間中に、見学会、デザインコンペの講評会、学会賞受賞者の講演会、公開シンポジウム、研究発表会、情報交換会（懇親会）

等が行われます。なかでも、シーズ段階の研究・社会実装まで幅広い情報提供と意見交換が可能な「ポスター発表」、企業団体から個人まで、活動の発信や交流をおこなう「企画展示」、より具体的で現実的課題への深い議論により解決を目指す「ミニフォーラム」等への参加は、造園技術者にとって有益であると思います。

例えば、ミニフォーラムは過去2年間の全国大会で20以上のテーマで開催され、「街路樹整備・管理の適正化の課題と今後」、「公園の社会的価値向上のための管理運営指標の試み」、「工事における既存樹木の保全のあり方」等は現場での実務とも密接に関連するものです。

ちなみに、2023年度の全国大会のミニフォーラムの一つとして開催された「造園の魅力-社会から必要とされる造園産業界の仕事とは-」の様子は、本誌「ちばの緑」の前号（第82号）に「2023年度日本造園学会全国大会報告」として掲載されていますので、あらためてご一読いただければ幸いです。

一方、学会では支部活動も盛んに行われています。支部組織は、北海道、東北、関東、中部、関西および九州の6支部からなり、千葉県は関東支部に属しています。関東支部では、年に一回、秋季に支部大会を開催しています。2日間の期間中に、公開シンポジウム、研究・事例発表会、交流会等を開催しています。全国大会とは異なり、支部の地域特性を活かしたローカルなテーマでの議論も魅力の一つです。

なお、全国大会、関東支部大会ともに、非会員の方も所定の参加費でほとんどのプログラムに参加可能です。是非、全国大会、支部大会に足をお運び下さい。

4 造園CPD制度の運営

ご承知のとおり、造園系技術者は、自らの責任で的確な判断を下し、適正に業務を実施し技術者の社会的使命を果たすことが求められます。このため、講習会・論文等の発表、研修、技術指導、業務経験等を通して継続的に自己研鑽する必要があります。このような継続教育を実施しつつ、技術者の能力開発を支援し、結果を客観的に評価する制度として、造園CPD制度が運用されています。造園CPD制度は（一社）日本造園建設業協会をはじめ、造園に関わる関連約30団体で構成する造園CPD協議会で実施されています。また、造園分野にとどまらず、土木、建築、技術士等の建設系CPD協議会との連携もはかられています。

学会は、造園CPD制度の運営を、公益事業の一つとして位置づけ、造園CPDプログラムの認定、造園CPD登録実施記録審査と証明書の発行等を担っています。

学会の諸活動の多くは、造園CPDプログラムの認定のも

とで実施され、それに参加することにより所定の単位を取得できます。例えば、「ランドスケープ技術報告集」は、造園CPD制度の「II. 論文等の発表」のうち、教育形態「(220, 221) 論文・総説・技術報告の発表（専門誌への査読無し発表）」に該当し、掲載された場合、筆頭者および連名者は定められた単位を取得できます。また、全国大会、支部大会ともに、ほとんどのプログラムが、造園CPDプログラムとしての認定を受けており、非会員の方も参加できますので、継続教育の一環として、是非、ご参加下さい。



2024年度全国大会ミニフォーラムでの学び
(造園学会中部支部提供)

5 おわりに

学会創設100周年を記念する全国大会は、2025年5月16日（金）から18日（日）まで、東京大学本郷地区キャンパス（安田講堂）にて開催されます。その後、各支部にて100周年記念の支部大会が開催され、関東支部大会（東京農業大学にて2025年12月開催予定）において、クロージングを迎える予定です。

造園・ランドスケープ界を巡る状況は常に変動しています。地球規模での視点からは、気候変動対策の推進、生物多様性の確保、Well-beingの実現が大きな課題となっています。一方、国内・地域でも、地球規模での課題や、我が国に特徴的な人口減少少子高齢化、集中豪雨の頻発や大規模地震への対応等を背景に、例えば、管理放棄地の解消、緑・農との共生、地域コミュニティの形成、中心市街地における滞在快適性の向上、都市のアイデンティティの確立などが、求められています。日本造園学会は、これらの社会的な要請に応え、社会・環境に貢献すべく活動を推進して参ります。皆様のご理解、ご協力・ご支援、そして学会活動への参加をお待ちしております。

日本造園学会に関するお問い合わせ先（学会事務局）

Tel: 03-5459-0515 / E-mail: office@jila-zouen.org